

令和6年度 江戸川区立西葛西中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康でたくましくがんばりぬく生徒 よく学び考えて実践する生徒 思いやりがあり社会に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 規律を守り責任を果たす生徒 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<学校>安心して登校でき（いじめなし）、満足して下校できる学校（成就感・達成感あり） <生徒>何事に対しても一生懸命に取り組み、基礎・基本を身に付けるため授業を大切にしている生徒 <教師>一歩先にチャレンジ（前例踏襲ではなく、一つ工夫を）
前年度までの本校の現状	成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で停滞していた教育活動や学校行事の多くを元に戻すことができた。 教員のICT活用能力向上の研修を年3回実施し、授業でタブレットを使える教員が増えた。 ICT機器の活用により、校務のペーパーレス化を進めることができた。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 学力・体力の向上 教員の授業力の向上とICT機器を活用したより多くの授業の展開 不登校生徒を生まない、減らす指導

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の定着	国語・数学・英語の学習コンテスト実施	合格点を決めて繰り返しテストを行い80%以上の生徒を合格させる。	B	A	B	1学期に実施できていない学年があるので、今後実施する。	B	基礎学力の定着は大切である。	A	粘り強い取組を展開できた。	A	取組の結果が出ていると思われる。	3教科だけでなく、各教科における基礎学力の定着に努める。
	○教員の指導力向上	①校外の研修への参加 ②授業改善プランの作成	①都の研修等に10人以上参加 ②2学期末までに作成	B	B	B	①都の研修を7名受講した。延べ回数は18回である。 ②作成中である。	A	研修受講者がたくさんいて良いと思う。	B	・外部の研修に参加する教員が多かった。 ・授業改善プランの作成が一部の教員に限られた。	B	教員の授業力向上に期待する。	授業改善プランの作成を徹底する。
	○読書科の更なる充実	①よむYOMUワークシートの実施 ②図書館を活用した探究的な学習	①年間30回以上 ②教科・学年で年1回以上	①各学年で方法は異なるが取り組んでいる。 ②1学期に実施した教科はあるがまだ不十分である。	C	B	C	①各学年で方法は異なるが取り組んでいる。 ②1学期に実施した教科はあるがまだ不十分である。	C	図書館の活用はなぜ難しい状況にあるのか。	C	授業での図書館の活用が増えたが、まだ一部の教科である。	C	今後の活用機会の増加を図ってほしい。
体力の向上	○基礎体力の向上	体力テストの結果を分析し弱い項目を補強する。	毎回の体育の授業、部活動で補強運動を行う。	C	C	B	体育の授業での補強運動はできている。部活動での補強運動が課題である。	B	生徒の体力向上に努めてほしい。	C	補強運動は実践しているが、なかなか結果に表われない。	C	取組を継続してほしい。	体力テストの結果を分析し、補強運動の内容を考え直す。
	○運動意欲の向上	①体を動かすことの必要性を指導する。 ②体を動かすことの楽しさを感じさせる。	①年1回以上、授業で運動理論の指導 ②毎日の昼休みの外遊びの推奨	C	C	C	①まだ実施できていない。 ②体育委員会でボール貸出を行っている。	C	生徒の体力向上に努めてほしい。	C	昼休みに校庭で遊ぶ生徒がなかなか増えない。	C	意欲向上を図ってほしい。	生涯スポーツの視点に立って指導する。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の充実	①教員間の個別指導計画の共有 ②校内委員会での情報共有、指導内容の確認	①学期1回全教員で共有する。 ②月2回行う。	A	A	A	①共有できている。 ②実施している。	A	継続してほしい。	A	情報交換、指導方針の確認等ができ、個に応じた対応ができた。	A	個に応じた指導ができているようで好ましい。	指導体制を継続し、個に応じた指導をさらに充実させる。
	○外国人生徒への対応の充実	ソフト面での配慮	学校からの文書等を母国語に翻訳（随時）	A	A	A	日本語指導を9名が受けている。一人一台端末の翻訳機能を活用している。	A	中国からの転入生が多いとのことだが、何か理由があるのか。	A	日本語指導員による指導を行い、徐々に日本語を使えるようになってきた。	A	取組を継続してほしい。	生徒の外国人生徒に対する人権感覚を身に付けさせる。

